

(別記様式)

令和8年度 府立聾学校舞鶴分校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>&lt;学校目標&gt; 夢・可能性・生きぬく力</p> <p>&lt;教育目標&gt; 人と向き合い、社会とつながりながら自ら考え、伝え、行動する幼児及び児童生徒の育成</p> <p>(1)夢と希望を持ち、自ら学び自らを高め、自らの未来を見通し切り拓く力を育む。</p> <p>(2)高い志とユニバーサルな視野をもって、自らの能力や可能性を最大限に伸ばし、自分らしくこれからの社会づくりに貢献できる人間を育成する。</p> <p>(3)目標を実現するため、失敗を恐れず挑戦し、やり抜く意志と健康でたくましく生きる力を育む。</p> <p>(4)礼儀と規律を重んじ、人を思いやり共に助け合い、人や社会と積極的に関わりながら共生する力を身につけ、次代を支える人間を育成する。</p> <p>(5)自然や文化を学び、愛し、大切にすることを育てる。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <p>(1)全校研究では、授業や生活場面での数量形に関わる幼児児童の気づきや言動を踏まえ、思考を促す関わりについて検討したことを指導場面で生かすことで、個々の実践力が高まった。</p> <p>(2)文部科学省委託事業「インクルーシブな学校運営モデル事業」(2年目)において、教科学習を中心とした新たな交流校との共同学習をはじめ、継続可能な交流の在り方を見通すことができた。</p> <p>(3)食育や保健、安全に関わる指導において、お便りや掲示物、生活調べや給食試食会等によって家庭と連携をとることで、保護者の意識を高めることができた。</p> <p>(4)熱中症や感染症に対しては、高い意識を保つためのお互いの情報発信や状況に応じた対策によって、教育活動への支障を最低限に抑えることができた。</p> <p>(5)これまで取り組んできた舞鶴分校の集いや担当者連絡会などの内容を見直すことで、より保護者や地域のニーズに応える行事や取組になり、地域とのつながりを強めることができた。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>(1)ICTの活用では、学校DX研修等の外部研修での成果の校内への還元や、個々の実践事例の交流には取り組めなかった。</p> <p>(2)教職員の手話力の向上については、どうしても個人任せになってしまった。1年をとおした具体的な目標や取組が必要だった。</p> <p>(3)体づくりの取組では、屋内での遊びや活動が中心となってしまった。集中的に取り組む期間を設けるという点でも課題が残った。</p> <p>(4)常時勤務する教員の減少もあって、校務分掌会議の個々への負担が大きくなってきている。</p> <p>(5)年度途中の年間計画の見直しをはじめ、全校で地域支援を行っていくための周知・確認や呼びかけが不十分になりがちだった。</p>	<p>1 豊かな学びの創造と確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の障害や発達に応じた言語力・学力の育成</li> <li>聴覚障害の特性や少人数の課題を踏まえ、授業のねらいや主体的な学びにつながるICTの利活用とICT教育の推進</li> <li>年間をとおした読書活動や保健・食育・安全に関わる日常的な言語習得の取組による幅広い言語力の育成</li> </ul> <p>2 豊かな人間性の育成と多様性の尊重</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「通じ合う」「分かり合う」「認め合う」ためのコミュニケーション能力の育成</li> <li>多様な集団での経験を広げ、子ども同士で言葉のやりとりをする力の育成</li> <li>自立活動の学習や交流及び共同学習、人権の取組による自他を理解する力の育成</li> </ul> <p>3 健やかな身体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動遊びや体育、体育的行事や日常的な遊びの充実による基礎体力の向上</li> <li>自立と社会参加の基盤となるソーシャルスキル(主に健康・生活)の育成</li> <li>体づくりや生活習慣の確立に向けた家庭との連携</li> </ul> <p>4 学びを支える教育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内における感染症拡大防止や熱中症対策の徹底と家庭との連携による教育活動の継続</li> <li>手話や教育オーディオロジーの研修による教職員の専門性の継承と人材育成の推進</li> <li>教職員が健康で生き生きと働ける職場作りと働き方改革の推進</li> </ul> <p>5 学校・家庭・地域の連携・協働と社会教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者(PTA)や学校運営協議会、福祉機関等の関係機関との連携による教育活動の充実</li> <li>府北部の聴覚障害児や保護者、地域のニーズに応える相談活動の充実とネットワークの強化</li> <li>舞鶴分校の強みや魅力、教育の成果や専門性の幅広い発信</li> </ul>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
1 豊かな学びの創造と確かな学力の育成	一人一人の障害や発達に応じた言語力・学力の育成	<p>研究テーマを全教職員で確認して計画的に全校研究会をもち、研究活動と日々の教育実践を結び付けることで数・量・形の概念形成を促し、算数的思考力を高める。</p> <p>授業研究会によってPDCAサイクルによる授業改善に取り組んだり事後研究会の成果をまとめたりすることで一人一人の授業力を高める。</p> <p>自立活動の指導を通して幼児児童の言語力の実態や課題をアセスメントし、担当と担任との連携によって幼児児童の言語力や学力を高める。</p>		

	<p>授業のねらいや主体的な学びにつながるICTの利活用とICT教育の推進</p> <p>年間をととした読書活動や保健・食育などにおける日常的な言語習得の取組による幅広い言語力の育成</p>	<p>聴覚障害の特性や少人数の課題を踏まえたICT活用の目標や課題を設定し、授業のねらいや幼児児童一人一人の学びに応じた活用に取り組む。</p> <p>交流校や居住地校、本校との交流において、オンラインを活用した伝え合いや学び合いの機会を積極的に作ることで交流及び共同学習を充実させる。</p> <p>授業でのよりよいICT機器の活用を進めるために、スキルアップのための研修に取り組み、成果を共有する。(校内研修、学校DX研修 他)</p> <p>年間をととして幼児児童の実態に応じた読書活動を工夫し、一人一人の本に触れる機会や読書量を増やすことで「本好きの子ども」を育てる。</p> <p>幅広いジャンルの本に触れたり、一人一人の読書量を増やしたりすることで、読書好きの子どもを育てる。(読書週間、長期休業、読書タイムの活用)</p> <p>会話を楽しむ気持ちや「もっと話したい」「もっと知りたい」という意欲を育てるために、毎日の挨拶や日常的な会話の中で常に「複数回の言葉のやりとり」を意識して関わる。</p>			
<p>2 豊かな人間性の育成と多様性の尊重</p>	<p>「通じ合う」「分かり合う」「認め合う」ためのコミュニケーション能力の育成</p> <p>多様な集団における主体的・対話的な学びの創造</p> <p>自立活動の学習や交流及び共同学習、人権の取組などをとおしての自他を理解する力の育成</p>	<p>児童集会・集団遊び・ペア活動を通して、様々なコミュニケーション手段を使って、互いに伝え合い、分かり合い、認め合う関係づくりを進める。</p> <p>体験的な学びを充実させ、事後の感想発表や日記・作文などをとおして感じたことや思ったことを他者と共有・共感できるようにする。</p> <p>教職員は、聾学校の基礎的環境整備のとして、子どもがいる場面では手話や指文字を用いる。</p> <p>行事や児童会遊び等を通して、子ども同士が関わり合い、話し合う場を設定し、多様な集団の中で主体的・対話的に学ぶ活動を充実させる。</p> <p>「インクル事業」(3年目)にあたり、交流校や居住地校との交流の回数や内容、取り組み方を工夫し、子ども同士が関わったり学んだりする場面や機会を増やすことで、幼児児童が自主的・主体的に考えたり行動したりする力をつける。</p> <p>行事や取組において個々の目標をもち、自分たちの力で計画・実施・振り返りをする活動を増やすことで、見通しをもって自主的に取り組む力を高める。</p> <p>自立活動での学習内容や子ども自身が考えたことを交流及び共同学習で発表し、話し合いや学び合いをとおして自己や他者を理解する力を高める。</p> <p>人権週間や「いじめアンケート」、「いいところ見つけ」等の人権の取組を通して、お互いの個性や価値観の違いを認め、自他を大切にすることを育む。</p> <p>卒業生や成人聴覚障害者と関わったり話を聞いたりする機会を作り、自身の障害や進路、将来の社会での生活などについて考えたり話し合ったりすることで、将来の目標や将来への見通しをもつ。</p>			
<p>3 健やかな身体力の育成</p>	<p>体育や体育的行事、遊びの充実による基礎体力の向上</p> <p>自立と社会参</p>	<p>体育的行事や取組における体力向上のねらいを明確にし、系統的かつ継続的に取り組むことで幼児児童の基礎体力の向上に取り組む。</p> <p>外遊びや屋外での活動を意識的に取り入れ、思い切り体を動かすことやダイナミックな遊びなどに取り組むことで体力を向上させる。</p> <p>学校保健計画に基づいた指導に取り組み、健康に過ごすための基礎的な知識や行動など、ソーシャルスキルの基盤となる力を身につけさせる。</p>			

	<p>加の基盤となるソーシャルスキル（主に健康・生活）の育成</p> <p>食に関する指導の全体計画に基づき、日々の給食や給食週間をはじめとした食育の取組や家庭との連携をとおして食に対する意識を高め、将来にわたって健康に過ごす体を作る。</p> <p>学校安全計画に基づき、安全に通学したり、社会生活を送ったりできるよう「安全の日」（毎月11日）を設定し、通学指導や安全・生活指導を計画的かつ継続的に取り組む。</p>			
	<p>体づくりや生活習慣の確立に向けた家庭との連携</p> <p>日々の連携や連絡ノートなどをおして家庭での生活習慣や生活実態を把握し、食事や睡眠など、規則正しい生活が送れるように指導する。</p> <p>幼児児童のよりよい生活習慣の確立に向けて、長期休み明けに生活調べを行い、結果を踏まえて家庭への報告や啓発を行う。</p> <p>たよりや掲示物などを活用して、健康管理や基本的な生活習慣の確立に向けての情報を積極的に発信する。</p>			
4 学びを支える環境の整備	<p>感染症や熱中症への対策の徹底による教育活動の継続</p> <p>感染症や熱中症の状況を踏まえ、感染症や熱中症への対策を徹底することで幼児児童の健康を守り、教育活動を継続させる。</p> <p>感染症や熱中症への対策をすすめるために、家庭との連携を十分にもつ。（風邪症状がある場合の対応、帽子や水筒の持参など）</p>			
	<p>手話や教育オーディオロジ等の研修による教職員の専門性の向上・継承と人材育成の推進</p> <p>年間を通じて手話研修や専門研修に取り組むことで、個々の教職員の力量や聾学校としての専門性を高める。</p> <p>聴覚管理や教育相談、自立活動や通級指導に係る専門性の継承と向上のために、校内での研修やケース検討、対外的な研修の報告会の開催や研修資料の作成に取り組む。</p> <p>日頃の実践や子どもとの関わり、指導方法などについて話し合える機会を作り、人材育成や職場全体の専門的力量的向上につなげる。</p>			
	<p>教職員が健康で生き生きと働ける職場づくりの推進</p> <p>お互いに敬意を払い、尊重する意識をもって接すること、丁寧なコミュニケーションに心がけることで風通しの良い職場づくりをする。</p> <p>働き方改革の視点に立って、それぞれの部署や職種における業務、分掌組織や取組のさらなる検討や見直しを行うことで、健康で働ける職場をつくる。</p> <p>メンタルヘルスの研修や職場の健康づくり事業の実施や職場改善アンケートに基づく改善や見直しによって、健康で働きやすい職場づくりに取り組む。</p>			
	<p>PTA や学校運営協議会、福祉機関等の関係機関との連携による教育活動の充実</p> <p>参観日の感想や教育アンケート、日常の連絡・連携をとおして保護者の分校教育への評価や要望を集約し、具体的な改善につなげる。</p> <p>参観日を活用して、保護者が学んだり交流を深めたりする機会を作り、保護者の子育てや家庭の教育力向上を支援する。</p> <p>学校運営協議会における熟議や委員からの助言を踏まえて学校経営計画の改善を図るとともに、関係機関との協働によって教育活動をさらに充実させる。</p>			
5 学校・家庭・地域の連携・協働と社会教育の推進	<p>聴覚障害児や保護者、地域のニーズに応える教育相談活動や支援の取組の充実と</p> <p>聾学校幼稚部への入学や就学、小学部卒業後の進路選択にあたって、面談や交流会、見学等での幅広い情報提供に努めながら保護者の進路選択を支援する。</p> <p>「舞鶴分校の集い」や地域別保護者懇談会を開催し、つながりや学び合いをおして子どもや保護者の自己や他者への理解を深め、地域におけるネットワークを築く。</p> <p>地域支援の行事や取組の実施や通学支援事業、卒業生への相談支援などにおける</p>			

ネットワークの強化	舞鶴分校の強みや魅力、教育の成果や専門性の幅広い発信	北部聴覚言語障害センターとの連携・協働によって府北部に在住する聴覚障害児の就修学を充実させる。			
		ホームページの更新回数を増やすとともに、幼児児童の活動の様子や聴覚障害に係る専門性など、幅広い内容を発信することで閲覧回数を増やし、府北部での存在意義を高める。			
		学校だよりやリーフレット、ポスターによって、地域支援センターの教育相談や事業、聾学校の専門性に関わる幅広い情報を発信する。			
		学校公開や担当者連絡会、公開講座やスキルアップ講座などを開催し、参加者のニーズや地域の課題に基づいた内容にすることで地域の支援力を高める。			

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	
----------------------------------	--

<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	
--------------------------------	--